

教科	科目	学年	単位数
地歴	地理探究	2年 (一貫探究系、探究系、人文・ 社会系、物性系・生命系)	3
使用教科書		副教材	
地理探究（二宮書店） 高等地図帳（二宮書店）		新詳地理資料COMPLETE（帝国書院） データブックオブザワールド（二宮書店）	

1. 学習到達目標

- ①地形、気候などの自然環境、農牧林水産業、エネルギー・鉱産資源、工業などから適切な事例を幾つか取り上げ、世界を系統地理的に大観できるようにする。
- ②地形図や統計資料を利用して、日常の生活圏・行動圏の地域性を多面的・多角的に考察して地誌的にとらえる視点や方法を身に付ける。
- ③地図に親しみ、地球的課題に関する諸事象を地図化したり地域区分する技能を身に付ける。
- ④交通・通信、貿易などの現状と課題を追究し、国家間の結びつきを地理的に考察することの意義に気付く。
- ⑤環境・エネルギー問題、人口・食糧問題、居住・都市問題の解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることを認識する。
- ⑥大学入試に対応できる知識と技能を身に付ける。

2. 評価

- ①年4回の定期テスト。
- ②週末課題、長期休暇中の課題、授業の中で使用したプリント、ノート、白地図など提出物の内容。
- ③朝テストの成績点。

※年間の評価は、1～3学期を通じて、上記の内容を総合的に判断して決定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・現代世界の様子を地理的な視点で研究するために、系統地理的な知識を身につけたか。 ・複数の知識を結び付け多面的に地理的事象について考えられたか。	・地理的内容の表やグラフなどを考察し、背景や理由などについて理解を深めることができたか。 ・地理的事象を論理的に説明できたか。	・授業内容を補足する形でより深い学びに向かう姿勢がみられたか。 ・深い考察のために自ら地理的情報を収集することができたか。

3. 学習内容（右ページ参照）

地形	プレートテクトニクス、大地形、小地形、海底地形と新資源
気候・環境問題	気候要素・因子、砂漠化と地球温暖化、異常気象、世界・日本の気候区分判定要領
農牧林水産業	世界の農牧林水産業の特徴、ホイットルセーの区分、日本の農牧林水産業の課題
エネルギー・鉱産資源	石油事情と中東問題、新エネルギー、鉱産資源の特徴と分布
交通・通信	世界を結ぶ貿易、通信、交通
人口問題	人口ピラミッド、少子高齢社会
村落・都市	集落の成り立ち、都市の性質

学期	月	単元・試験	授業内容（教科書）	その他（到達目標・学習のポイントなど）
1 学 期	4	[1] 地形	第Ⅰ編 現代世界の系統地理的考察	・プレートテクトニクスから入り、大地形の類型・分布の類似性・規則性を通じて地下資源・地震・火山の分布との関連性を考える。
	5	[2] 気候・土壌 日本の自然環境	1章 自然環境	・小地形と土地利用の関連性を理解し、人間生活との関わりを考える。
	6		①地形 ②気候と生態系 ③世界各地の自然と生活 ④日本の自然環境と防災	・気候因子と世界の気候分布の関連性を理解する。世界の気候区分の方法と気候区の特徴を理解し、人間生活との関わりを考える。 ・世界の自然環境に関する分布図を活用し、世界の自然環境が地形・気候・植生・土壌などの自然的要素の結びつきによって形成されていることを理解する。
	7	[3] 環境問題	⑤地球環境問題	・日本の地形および気候区分の方法と気候区の特徴を理解する。 ・地球規模で、現在進行形で問題となっている様々な環境問題に理解を深める。
2 学 期	8	[4] 農牧林水産業	2章 資源と産業	・世界の農牧業地域の特徴を自然的条件や社会・文化的条件との関連性を通して考え、林業・水産業とともに地域の人々の生活を形成してきたことを理解する。
	9	[5] エネルギー 鉱産資源・工業	①世界の農林水産業	・資料・統計を活用し、発展途上国と先進国の視点から、食糧問題の地域性について考察し、問題解決の糸口を考える。
	10		②資源・エネルギー ③工業 ④第3次産業	・エネルギー・鉱産資源の生産・分布の偏在性に着目し、生産国と消費国それぞれの産業構造とエネルギー・鉱産資源の国際的流通の関係を理解する。
	11		[6] 交通と通信	・工業地域の形成に共通する立地条件に着目し、条件の変化による立地移動を考えるとともに、世界の工業生産分布の地域性を理解する。
3 学 期	12		3章 人・モノ・金のつながり ①交通・通信 ②貿易・観光	・消費・余暇活動の地域性に着目し、自然的条件・文化的条件・経済的条件など、消費・余暇活動における地域的差異の背景を考察する。 ・交通の発達、世界貿易の拡大、労働力や資金の国際的移動の現状を理解し、それらがグローバリゼーションの進展に果たす役割について考察する。 ・資料・統計を活用し、通信の発達と現状を理解し、それらがグローバリゼーションの進展に果たす役割について考察する。
	1	[7] 人口問題	4章 人口、村落・都市 ①人口	・資料・統計を活用し、発展途上国と先進国の視点から、人口問題の地域性について考察し、問題解決の糸口を考える。
	2	[8] 村落と都市	②村落と都市	・村落・都市の機能と立地・形態について理解し、世界の村落や都市の形成・発達や分布に共通性と異質性があることに着目する。
	3			

4. その他（科目の特徴や学習の注意点など）

- ① 2年次においては、地形、気候・土壌といった自然環境、環境問題、農牧林水産業、エネルギー資源・鉱産資源、工業、交通と通信、人口問題、村落・都市といった系統地理的分野を重点的に学習する。
- ② 3年次においては、2年次の継続履修の形になり、国家と国家群、人種・民族・宗教といった系統地理的分野と、外国地誌、日本地誌といった地誌学の分野を重点的に学習する。
- ③ 1年次に学んだ地理総合の内容を履修済みということを考慮して授業を行う。